

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



撮影 中村彰宏

ご挨拶

新型コロナウイルスの患者数は相変わらず増えたり減ったりを繰り返していますが、規制が少しずつ緩和されてきているのは歓迎すべきことなのだろうと思っています。

先日、喜谷喜夫様と次女の安喜オーバー様（当財団理事）が来日してくださいました。私たちの財団の理事会もズームを使っ

てのリモート会議が続いていましたが、それを機会に「もみじの家」の会議室をお借りしてリアル会議を開催しました。三年ぶりに実際に集まってみると、リモートでは感じることの出来なかつた、皆さんの熱い思いが伝わってきてワクワク、ドキドキの時間で感激しました。

まだボランティアの皆さんの活動もいろいろと制限されていますが、もう少しの辛抱だと思います。この我慢の時期にボランティ

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

代表理事 細谷 亮太

アについて、ゆっくり考えてみるのも意義深いことと思います。

ずっと昔のことです。ボランティアはそこでお給料を貰って働いている人の仕事を奪ってはいけないと、私に教えてくれた先輩がいました。その時は「なるほどね」と私も納得しました。単純に言えば、可能ならばここに人が配置されていてこういう仕事をしてくれたら助かるのにと私たちが思う。しかしながら管理者が経済的等さまざまな理由から人の配置ができない。こんな時がボランティアの出番なのです。十分な人数を配置できない場合も出番になります。

「もみじの家」という施設自体が本当はボランティア的な発想でできたのです。こんな施設があればいいのにとの思いが国をなんとか動かし、皆を動かしたのです。お金も人もまだまだ十分ではないのです。ボランティアの力の見せ所なのです。お互いにごんぱりましょう。来年も良い年でありますように。

☆財団の主なイベントご紹介

■写真展「“いのち”輝く」世田谷美術館区民ギャラリー

10月18～23日、世田谷美術館区民ギャラリーにおいて写真展「“いのち”輝く～キッズファム財団ファミリーフォトプロジェクト～」を開催しました。今年で3回目となります。

これまでの倍となる広々としたスペースをお借りして、重い病気を持つお子さんとご家族の写真、ご家族からいただいたメッセージ、財団の活動を紹介するポスター、医療的ケアについての説明資料を展示しました。

他の展覧会や砧公園に散歩にいらして、たまたま寄ってくださった方、「毎年来ています」という方、写真に写っているご家族、お子さんたちをお世話している訪問看護師さんやヘルパーさんなど、248名の方にご来場いただきました。

熱心に写真一点一点をご覧いただき、メッセージを読んで涙され、数々のご質問・ご感想をいただきました。



いただいたご意見、ご感想の一部を紹介いたします。

- 支えていられる皆様にエールを送って、私も明るい気持ちになっています。ありがとうございます!!
- 病気があってもがんばるんだねと思った。(10歳代)
- 元気をもらうことができました。とてもよかったです。次回も楽しみにしています。
- 今日ここに来て本当に幸せでした。
- 皆様の笑顔がすばらしく、心が洗われるようでした。
- 自分のピュアな感情を大切に「一緒に生きる」を感じていきたいと思います。
- 写真が素敵すぎて泣けてきました。

開催にあたり快く展示の許可をくださったご家族の皆様、ご来場いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。また来年も開催いたします。ぜひご来場ください。

■写真展「“いのち”輝く」NHK技研ギャラリー



8月1～26日の4週間、世田谷区砧にあるNHK放送技術研究所1階“技研ギャラリー”で写真展を行いました。今回で3回目となります。

“NHK技研ギャラリー”は、天井が高く、大きな窓からやさしく光が差し込む、とても素敵な空間です。平日の9時30分から18時まで、だれでも自由に来館できますが、知られていないため来館者は多くありません。職員の皆様やNHK技研に用事があり来られた方、近所の方等がご覧いただきました。

ご覧いただいた方からは、「重い病気を持つ子ども、その家族がもっと社会に受け入れられるようになってほしいと思いました。まず、このような家族への理解、そして思いやりが広がりますように。」「きっと毎日大変だったり、心配な事はたくさんあるでしょうが、親子で一緒に過ごせる幸せみたいなものが、どの写真からも溢れている感じがします。」と、子どもと家族に心を寄せてくださるご意見やご感想をいただきました。

■天空コンサート7&7

7月7日、豊洲シビックセンターホールで開催された「天空コンサート7&7」の際、ロビーに写真を展示させていただきました。若手演奏家に演奏の機会を提供している“アートピア”主催で、七夕の夜、天空に輝く星々のような美しい演奏を楽しむコンサートでした。



■JAIFA東京協会主催 夏季セミナー



7月28日、北区王子の“北とぴあ・さくらホール”で行われたJAIFA（公益社団法人生命保険ファイナンスシャルアドバイザー協会）夏季セミナーの際、ロビーに写真を展示し、会員の皆様にご覧いただきました。たくさんの質問、共感や励ましの言葉をいただき、“広く社会のために”という熱い思いを感じた一日でした。

■大妻女子大学学園祭

10月29日・30日、大妻女子大学多摩キャンパスで行われた学園祭で、人間福祉学科の学生さんたちと共に写真展を行い、400名近い方にご来場いただきました。学生さん作成の資料も展示し、重い病気を持つ子どもと家族について知っていただく機会となりました。



■チャリティライブ

偶数月にYouTubeでスタジオから無料生配信しています。YouTube視聴者以外にZoomでご参加いただいた方にもアーティストの皆さんと一緒に楽しんでいただいています。

■第21回 - 6月8日

認定NPO法人朴(ほお)の会「音楽とどけ隊」の大塚雅仁さんと島内菜々子さんのダブルボーカルと、笈千佳子さんによるピアノ演奏、袴田容さんによるチェロの演奏でした。前半は「音楽とどけ隊」による生演奏を、後半は「ミュージック・ジャンクション」という初めての試みを行いました。



英国では、様々な環境や状況のお子さん達が、同じ音楽を演奏することで分け隔てなく繋がる「ミュージック・ジャンクション」という活動がおこなわれています。英国在住だった当財団創設者の喜谷昌代はこの活動を日本でもおこないたいという強い想いを持っていました。

そこで今回「みくりキッズくりにつく」と「Ohana Kids」さんにご参加いただき、「音楽とどけ隊」が「おもちゃのシンフォニー」という曲の合奏指導をして、各施設で約1ヶ月間の練習を重ねたものを1つの動画に編集し配信しました。

来年度に第2回を開催したいと考えています。ご参加希望の方は当財団までご連絡下さい。



■ファミリーフォト・プロジェクト撮影イベント

ファミリーフォト・プロジェクトは、「もみじの家」滞在中に家族写真を撮影し、アルバムに入れた写真とデータをプレゼントする取り組みで、利用されたご家族に大好評だったのですが、コロナウイルス感染症のため、2020年4月より休止しています。その代替として、昨年度は2回の撮影イベントを開催しました。今年度は、Hi・na・ta(世田谷区医療的ケア相談支援センター)1周年記念イベントの際にお手伝いした撮影イベントと財団主催の撮影イベント、各1回です。

1周年記念イベントは7月30日(土)、コロナ感染者の増加を考慮し、3つの時間帯別の予約制で、9組の親子が、親子写真撮影、エアトランポリン、ハーバリウム作り、ゴーカートを楽しみました。親子写真撮影は、ファミリーフォト・プロジェクトのカメラマンの一人である安田さんが、ひまわりのフラワーアレンジメントを前に親子の満面の笑顔を切り取っていただきました。当日の親子写真はすべて、世田谷美術館の写真展に展示させていただきますました。



Hi・na・ta (カメラマン：安田一貴)

■第22回 - 8月11日

Clown One Japan (クラウン ワン ジャパン) の皆さんによるパフォーマンスでした。ご自宅、病棟、施設からも多くの方がZoom参加してくださいました。



テーマは「クラウン夏祭り」で、くじ引きBOXから引いたキーワードを元にクラウンがジェスチャーし視聴者が当てるという「夏祭りクイズ」、フライパンやしゃもじ、コップなどお家の中にあるものを楽器にする「お家にあるもので楽器を作ろう」、作った楽器を鳴らしながら踊る「作った楽器で盆踊り大会」。いずれも楽しいプログラムばかりでした。当財団理事の余谷医師もモデレーターとして参加しました。

■第23回 - 10月12日

TSM渋谷(東京スクールオブミュージック専門学校渋谷)の学生さんと田原先生によるパフォーマンスでした。



シンガーソングライターのMel(メル)さんによる「どんぐりころころ」と「風になる(つじあやの)」の弾き語りからスタートし、続いて、TSM渋谷PLAYFUL CHOIR(プレイフル クワイア)さんにゴスペル「ハクナ・マタタ(ライオン・キング)」「パプリカ(Foolin')」「Happy Day(The Soulmates)」を披露していただきました。元気でパワーみなぎる歌は圧巻でした。事前に、お子さんやご家族のことや当財団の活動内容を知っていただいた上でのご出演で、音楽の力を改めて感じたライブでした。

財団主催の撮影イベントは9月3日(土)、みくりキッズくりにつく(世田谷区上野毛)の医療型特定短期入所「まんまる」を利用されているお子さんとそのご家族を対象として、みくりキッズくりにつく(カメラマン：五井寧)



ズくりにつくの一室をお借りして実施しました。やわらかな光が差し込み、ゆったりとした「カフェテラス」のような雰囲気のある部屋で、そのうえ、職員の皆様がとてもおしゃれな風船をたくさん用意してくださったので、撮影スタジオとしてのクオリティ、急上昇!! とても素敵な、たのしい撮影イベントになりました。初めてお子さんが通われている施設にいらしたというお父様が、「こんなに素敵なお場所に通っているんだね。」と感慨深そうにおっしゃったのも印象的でした。

ご参加くださったご家族の皆様、Hi・na・ta、みくりキッズくりにつくの皆様、ありがとうございました。

■全国医療的ケアライン全国フォーラムに協賛しました

9月18日(日)国立成育医療研究センターの「もみじの家」と「全国医療的ケアライン」が共催する全国フォーラム『医療的ケア児支援法施行1年を祝い、私たちの思いを伝えよう』が、国会議員や省庁関係者の方々をお招きして、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されました。ちょうど台風が接近して雨が降る中、多くのご家族が日本中から参加されました。キッズファム財団としてはこのイベントに協賛するとともに、事務局メンバーが会場の受付や関係者のガイド役としてボランティア参加いたしました。



第1部は講演会「医療的ケア児者と家族の生活」というテーマでご家族による生活実態報告や母親座談会が行われ、第2部はシンポジウム「医療的ケア児の通学と親の付き添いは今」に国会議員や省庁関係者が登壇して白熱した議論が交わされました。そして第3部はヴァイオリニストの増田太郎さんによるライブコンサートが行われ、有意義な時間を過ごしました。



全国医療的ケアラインは、全国各地の医療的ケアが必要な当事者や家族、支援者をつなぐネットワークとして2022年3月に誕生しました。医療的ケアに関わる家族会が都道府県単位に会員登録する、全国初の団体です。重い病気や障がいがあっても、安心して住み慣れた地域で暮らし続けられる社会作りのため、政策提言や啓発イベント開催などの活動を行っています。

当日のアーカイブ配信は、当財団ウェブサイトより視聴することができます。

■そらぶちフェスティバル訪問記

キッズファム財団では、北海道滝川市にある“そらぶちキッズキャンプ”で10月8日(土)、9日(日)に開催された「そらぶちフェスティバル2022年秋」に参加しました。



“そらぶち”とはアイヌ語で“滝下る川”という意味でキャンプ地のある滝川市の由来となった言葉です。今回は一般公開イベントとして普段は安全管理上、公開していませんが、寄付とボランティアの力で建設・運営されている医療ケア付キャンプ場の様子を、自由に見学することができました。財団として何かできることをお伺いしたところ、会場に設営されたチャリティショップで販売・抽選のお手伝いをさせていただきました。

日本国内に約20万人いるといわれている小児がんや心臓病などの難病とたたかう子どもたち。「そらぶちキッズキャンプ」は医療施設を完備し、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを設けた、子どもたちの夢のキャンプを創っています。



病気の子どもたちやその家族が、自然の中で病気のことを忘れ、笑顔で楽しいときを過ごし、「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「生きる力」「希望」を得ることができる場所を提供しています。

現在はコロナ禍により限定された利用状況ですが、将来多くの子どもたちと家族が利用できる日が来ることを願っています。

■ILBS例会で講演しました

11月1日(火)午後、千代田区永田町のメキシコ大使館においてILBS(国際福祉協会)の例会があり、キッズファム財団の理事がゲストスピーカーとして「財団の活動」をお話しさせていただきました。

各国大使夫人や林外務大臣夫人も含め約50人の参加者に、重い病気を持つ子どもと家族のこと、財団創設者・喜谷昌代のこと、財団のいろいろな活動内容を英語でスライドショーを使って説明させていただきました。普段なかなかお伝えできない方々にお話しできてとても有意義な機会でした。

※ILBSは、1953年に設立された在日大使夫人や政界・財界の夫人有志が参加する福祉団体です。



■私が伝えたいことー主張コンクールにかえて

11月5日に実施を予定していましたが「第5回主張コンクール」は応募者が少なかったので中止といたしました。ご応募いただきましたお二人の「主張」は、多くの皆様を知っていただきたい内容でしたので、ご紹介いたします。

『障がい児を育みながら働く』 黒瀬 雅子様（広島市在住）

我が家の8歳になる次男は、特別支援学校に通っています。妊娠中に心疾患がわかり、出生後に複数の病気が発覚、病気や障がいを持つ子を育てていく覚悟なんてできないまま子育てがスタートしました。体調の揺れと向き合いながら、相談する人も少なく不安で孤独だった乳児期、親子で療育園に通った幼児期、自分のイメージしていた子育てとは大きく違っていたし、看護師としての仕事の継続も断念、ポジティブ・ネガティブそれぞれの色々な感情を行き来しました。

でも、次男の子育ては、大変だけれどもとても幸せで、さらに、我が子を通しての子どもたちとの出会いは、命の尊さや輝き・色づきを感じる場面がいっぱいで、想像もしていなかった素敵な時間を過ごすことができています。

自分の子育て経験や感じてきたことを活かしたいと、訪問看護師としてパート勤務を始め、ここでも重い病気や障がいを持つ方との心に残る出会いがありました。不安定な体調、呼吸器管理をはじめとした医療的ケア、ご家族による断続的な介護、支援も十分とは言えず大変なことが多い生活ですが、皆さん、しなやかさと強さを持って前向きに暮らしておられます。皆さんに、多くのことを教えてもらいました。

子育てや訪問看護の経験を通して、人と繋がり・繋げる、生活の潤いや豊かさを追求する、障がい児者が参加できる社会について考えていきたい。そんなことを思うようになり、

今は自分らしい働き方を探しています。

障がい児者の母の就労率はとても低いですが、私は社会に居続けることを小さな目標にしています。理由は、社会に出ることがどうしても叶わない当事者と家族の思いを、共感力を持って代弁したい、障がい児者と家族の暮らしを、周りの方に自分を通して理解してもらいたい、圧倒的に母親が担っている障がい児者の育児・介護、この古典的な社会の流れを変えていきたい…。

共生社会に向かって、皆で繋がって、色々な視点で頑張っていきたいですね！



『今を生きるということ』 重宗 裕美様（横浜市在住）

死を意識する事。それは、怖い事です。子供の死なら、尚更考えたくない。けれど、我が家は死を意識することで、今を熱く輝く人生を生きる事が出来ています。

娘は、心臓の難病と蛋白や免疫が漏れる病を抱えています。どちらも根本的な治療がなく、一年の半分は入院生活。そんな娘には、幼い頃から、全て本当の事を伝えてきました。幼い子供に判断力はないと非難もありますが、私は、自分の人生を自分で選択させたいと思いました。苦しい水分制限・痛い自己注射・頻回な嫌な入院。耐えるのは、全て本人。私だったら、自分で納得しないと耐えられないと思ったからです。

七歳から心不全と合併症で、入院ばかりに。やっと退院しても、倦怠感・頭痛・酷い下痢・繰り返す嘔吐。毎日、布団で横たわる姿は、まるで生きる屍。生きる事自体が辛いのではないかとそう思う程でした。同じ頃、医師に「五年後十年後の姿は想像できません」と聞きました。感染が怖く、十年引籠り育ててきましたが、全てが馬鹿馬鹿しくなりました。恐怖を捨て、どこにでも連れて行くと決心。そして、全てのやる気を失っていた娘に「大人になれないかもしれない。だから、何でも一度やってみてほしい。」と伝え、毎日、子供達の願いを叶えることにしました。体はどうにもならなくても、心だけは壊すまい！の一心で。まず始めたのは、前日ま

で入院しての沖縄旅行。すると、体調が良くなる奇跡がおきました。自宅でも、私に刺激を受け、私もダンスを覚えたいと、身体を起こし始め、それからは毎日。気づけば、布団から離れることが出来ました。ここからは、人生の巻き返し。自信を手にし、別人に。今も、病状は決して良くなっているわけではありませんが、幾多の挑戦を重ね、生きることを楽しんでいきます。「生きているうちにやりたい事を全部やる。」そう言い、死の恐怖と共に、今を生きることに集中させ、一分一秒を楽しんでいます。あの宣告から五年目の今年。心を元気にする事が、彼女に奇跡を与えています。



*主張コンクールに応募いただいた『障がい児を育みながら働く』と『ひとりで学校に通ってみたい』は当財団ウェブサイトにて全文を掲載しています。ぜひお読み下さい。



英国だより (9)

喜谷 喜夫



今回、皆様にお話ししたい事としては現在の疲弊した英国経済状態ではなく、9月8日に崩御されたクイーンエリザベス二世女王陛下の事です。96年間の生涯を国に捧げられ、常に国民の為に考えて居られた方で全国民から絶大な信頼と尊敬を得られていた方ですから、当分の間英国国民の頭から消える事は無いのではないのでしょうか。

英国政府には数年前から“London Bridge is Down”というコードネームがあり、万一、女王様が亡くなった場合の死亡発表方法、国葬、服喪期間、等々のすべてを検討していたと言われます。なかには女王様自身が決められた事項もあると言われています。今回の一連の行事もこれに基づいて執行されました。

偶々英国に居りました私も殆どの儀式をTVで拝見いたしました。古典的な儀式、それに使用する衣服、小道具等々英国でなければ出来ない事ばかり。大変感心しびっくり致しました。多分英国でも次の機会には今回より内容を削減しなければ出来ないのではと考えながら見て居りました。



BBCのTV放映より

女王陛下が亡くなられたスコットランドのバルモラル城からエディンバラ、バ

ッキンガムパレス、ウエストミンスターホール及び寺院、そしてウィンザー城のセントジョージス・チャペルと何処も女王陛下を慕う国民で一杯でした。

チャールズ3世国王とカミラ王妃が9月9日にエディンバラからロンドンへ戻られ、バッキンガム宮殿の門前で女王の死を悲しむ大勢の人々と出会ったとき、偶々小生の孫息子が女王様に薔薇の花束



を差し上げるべくその場に居りまして新国王と握手し、写真を撮らせて頂いたと申して居りました(上の写真)。

ウィンザー城では高位の王族が崩御された時のみ鳴る追悼の鐘が96発、英国夏時間の正午から13時35分まで1分ごとに鳴らされ、女王の96年間の人生を記念しました。

英国各地で様々な追悼行事が行われましたが、これは当分の間続く様です。

はじめまして

4月からキッズファム財団理事を拝命しました、国立成育医療研究センター病院長の笠原群生と申します。珍しい名前だと言われますが、群馬生まれのため名付けられたそうです。3人兄弟の長男で、次男はベルリン(伯林)で生まれて伯生、三男は足利尊氏の故郷で生まれたため尊生と、それぞれ出生地にちなんだ名前を付けてもらいました。父親が循環器内科医で転勤が多かったため、子どもの頃は北関東~ヨーロッパまで、引っ越しが多かったことを覚えております。

医者になろうと思ったのは、父親が日夜患者さんのため一生懸命に働いていた姿を見ていた影響が大きいと思います。医師になってからの専門は肝胆膵・移植外科で、主に肝臓や膵臓の悪性腫瘍や肝臓・腎臓・小腸の移植医療を30年行って参りました。最初は成人の外科医だったのですが、今から18年前に上司の京都大学移植外科の田中紘一教授に「東京の小児病院でこどもの臓器移植プログラムを立ち上げなさい」と命題を頂き、以来こどもの腹部臓器移植および肝胆膵外科を専門にしております。最初はよちよち歩きだった小児移植プログラムも、現在は豊富な症例数と良好な成績から国際的な小児臓器移植施設として広く認知されています。また最初は成人の外科医でしたが、今は自分が執刀させていただいたお子さん達が大きくなり、自分の夢に向かって力強く歩んでいく姿にとても勇気づけられ、子どもの医療を専門にして幸せ

笠原 群生



だと思っています。

4月から病院長になり、コロナ渦で子どもたちが苦悩する姿をみてきました。子どもたちが心理・社会的に幸せに過ごせるために何が私達にできるのか、毎日センタースタッフと一緒に悩みながら過ごしています。今後は重い病気を持つ子どもと家族を支える財団(キッズファム財団)の皆様とも、子どもたち・ご家族の苦しみや喜びに寄り添い、よりよい医療・ケアをご提供できるよう尽力して参りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

History of KIDANI 〈11〉 キッズファム財団の設立とその後

当財団創設者、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。前号のもみじの家開設に引き続き、今号はキッズファム財団の設立についてお伝えします。

当財団の前身は日本女子大学の同窓会「桜楓会」世田谷支部有志による「もみじの家開設を支援する会」です。喜谷の思いに触れ、資金集めや広報をした経緯は前号でお伝えした通りです。当初は会名通りもみじの家開設後には解散の予定でしたが、喜谷、もみじの家、そして支援する会自体にも継続したい思いがありました。



宇都宮大学での写真展

そこで支援対象を拡げ、“日本中の子もたちと家族を応援していこう”ひいては“第2第3のもみじの家建設を目指そう”という高い理念

を掲げ、2016年5月に一般財団法人「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団」が設立されました。当初財団の英語名を「Foundation for Severely-ill Kids and Their Families」としたことから「キッズファム財団」が通称となりました。

財団理事長に就任した喜谷はその後も度々英国より来日しました。以前よりパーキンソン病を患っていたのですが、子どもや家族たちとの懇談会、写真展「生きる喜び～重い病気を持つ子どもと家族の日々～」を開催した宇都宮大学やNPO法人うりずんなどへの訪問、もみじの家や財団スタッフと

の懇親等、精力的な活動を行いました。不思議なことに喜谷の人柄と思いに触れた方々は自ら快く尽力して下さいました。

あるインタビューで喜谷は「私にボランティアの生活がなかったら、どのように生きていたのかな、と時々思います。普通ではお目にかかれない社会の中のいろいろな方たちと出会うことが出来て、たくさんのことを教えていただけます。それを通じて、自分が与えていただいていることや、ものが心からありがたいと思えることは、すごく幸せだと思います」と語っていました。既に、旭日双光章が叙勲され、英国王室からのMBE（大英帝国勲章五等勲爵士）を受けていましたが、決しておごることなく、心には常に周りへの感謝がありました。



ご家族との懇談会

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2022.4.1 ~ 2022.9.30)

敬称略

秋前 里依菜/畔上 英子/荒田 尚子/安西 恵美子/飯泉 希世子/飯野 明子/池上 典子/池田 琢哉/伊佐 拓哲/石井 恒樹/石井 由美子/石岡 泰子/石田 篤子/石橋 広隆/石原 晶世/石山 正子/五十子 敬子/伊藤 啓子/伊東 ふじ子/稲井 真貴子/稲垣 いく子/犬塚 陽子/伊野 公基/岩佐 敏子/岩垂 明子/岩間 有喜子/上野 博・悦子/宇川 俊和/梅木 孝治/宇山 真紀子/江端 貴子/大川 周二/岡田 那美枝/岡部 和子/奥野 英子/小野 登美子/加我 牧子/柿内 佐保子/片山 成美/片山 ます江/勝川 恵子/加藤 文/加藤 祈世子/金子 恵美/金子 立/金田 永子/蒲谷 ひろみ/鎌田 千津子/亀山 厚也/亀山 聡子/木内 公夫/岸本 晃子/喜谷 喜夫/鬼頭 とし子/絹山 豊子/清田 甚/工藤 加寿子/工藤 隆司/窪田 満/熊谷 一夫・澄子/栗原 喜久子/栗原 幹雄/栗原 義和/児玉 桂子/狐塚 七重/後藤 祥子/小林 京子/小林 康德/小峰 万木子/小宮山 雅子/斉藤 葉子/西塔 雅彦/佐伯 理華/桜井 清文/佐々木 葉子/笹嶋 真理子/しばた ゆか/島谷 美成・恵以子/清水 めぐみ/白木 登美子/新藤 由喜子/杉山 喜美子/須崎 ゆかり/鈴木 かおる/鈴木 利子/鈴木 牧子/鈴木 佑子/鈴木 祐子/高木 俊子/高島 涉/高梨 絹代/高橋 昭彦/高橋 雅江/田川 元子/滝塚 厚夫/田代 洋子/田添 敦孝/田中 佳子/玉井 祥子/土田 和子/土屋 幸子/寺田 晴子/土居 和子/所昭宏/中田 俊行/中野 喜久子・由美子/中野 弘子/永峰 涼子/中山 知行/棚川 由紀子/西川 博子/西田 泰成/西谷 久美子/西堀 勝仁/沼倉 はるみ/原田 純子

久田 辰夫/平田 恭信/平馬 慶子/ファミリーグ ラーマン/吹浦 忠正/柳瀬 房子/藤井 克徳/藤枝 幹也/藤岡 康/藤田 学/古澤 育恵/古屋 京子/星 多恵子/星 由紀子/堀内 静夫/堀江 ひろ子/前田 和恵/増田 美鶴/松尾 三枝子/松坂 ヒロシ/松谷 明美/三浦 正充/道林 友子/宮武 優子/宮本 尚子/村井 やよい/馬上 英実/森部 加奈子/守家 李衣/森山 邦代/森山 誠二/山内 敏樹/山川 好子/山根 由香/山羽 啓子/吉岡 月子/吉田 三恵子/吉野 維真/若松 和子/渡辺 泰子/匿名 22名

イニシャル 8名 AK/AT/KK/MS/RN/TK/YC/YH

お宝エイド 9名 加我 牧子/亀井 久治/木島 慶子/清水 由美子/高橋 朝子/中野 裕子/孫田 慶子/渡辺 美佐子/匿名 1名

ご寄付いただいた企業・団体

ILBS(国際福祉協会)/アトムメディカル株式会社/医療法人社団のびた/海井医科器械株式会社/株式会社富士医科精器/株式会社八神製作所/コーユーレンティア株式会社/(社)JAIFA東京協会/宗教法人 成勝寺/首都開発株式会社/日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社/日本産業パートナーズ株式会社

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000円
- ② パートナー会員 1口 10,000円
- ③ サポーター会員 1口 3,000円

※1口から何口でもお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替
00140-0-420461
2. 三菱UFJ銀行 成城支店
普通 0233800
3. クレジット決済 (QRコード)



- ★ 三菱UFJ銀行に初めてご送金いただいた方は、メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。

—お知らせ—

- ★書籍「ひとすじの光—喜谷昌代の生涯」を特別価格で販売中です。本を購入いただいた売り上げは全額、重い病気を持つ子どもと家族を支える活動に使わせていただきます。下記の財団ウェブサイトから購入いただけます。
- ★Tポイント募金にご協力をお願いします。Tポイントカードをお持ちでしたら、ポイントをキッズファミ財団に募金いただくことが可能です。下記のウェブサイトからお手続きいただけます。
<https://tsite.jp/donation/>



おかげさまで…

みなさまに愛される

街角の募金箱

世田谷区立総合運動場温水プールの2Fにある「レストランクーポール砧店」を紹介します。長年親しまれたオムライスやハンバーグなどの老舗洋食レストランの味を、現代風にアレンジしてご提供いただいています。

建物内に温水プール、隣にテニスコートがあることから小さなお子様連れやひと汗流した年配のお客様がいらっしゃることも多く、いつも賑わっています。

この度、ご縁をいただき、新たに募金箱を置かせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



明るい店内

秋山店長とスタッフさん

編集後記

キッズファミ通信No.12をお届けします。コロナ禍はまだ収束していませんが、以前に比べると普通の活動が少しできるようになってきた感があります。

北海道滝川市にある「そらぶちキッズキャンプ」でのフェスティバルに参加させていただき、その雄大な景色と施設に感動しました。また、全国医療的ケアラインの全国大会もリアルとリモートのハイブリッド方式で開催され、当財団としても協賛という形で応援させていただきました。

今回の表紙は、財団創設者・喜谷昌代の英国の家の庭にあるリンゴの木です。たわわに実ったリンゴにご家族の姿が映りこんでいます。(大川)



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファミ財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1

国立成育医療研究センター内



03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファミ財団」で検索ください

Foundation for Severely Ill Children and Their Families